



分流部改築の必要性

～旭川放水路事業の最終工程～

旭川放水路（百間川）は、江戸時代より残る放水路を活用し、昭和40年代より国により河川改修を進めています。百間川への洪水の分流位置は、現在も当時と同様と言われており、また分流部は豊かな自然環境が残る貴重な河川空間であることから、その機能と施設を極力引き継いだ形で改修を進めています。

分流部改築の必要性と整備効果



これは、平成10年10月洪水時の状況です。
旭川の基準地点（下牧）で毎秒約4,300トンが流下し、百間川に毎秒約900トンが分流しましたが、一の荒手の土堤部、二の荒手の空石積が被災しています。
発掘調査の結果から今まで幾度も修復・補強を繰り返していたことが分っています。

平成10年10月洪水の被災状況



一の荒手



一の荒手



二の荒手

分流部の改築が無ければ…

河川整備基本方針規模の洪水に対して

適正な分派ができず、分流部（一の荒手・二の荒手・背割堤）は空石積みのため洪水により破壊する可能性があり、壊れた場合は百間川的能力よりも多くの洪水が流れ込むため、沿川で浸水被害が発生します。

※旭川の流量が毎秒約5,000トンを超える場合、洪水は背割堤の全区間を越流します。

単位：m³/s 約6,000

旭川

百間川

砂川

河口水門

百間川への適正な分流ができない

分流部が損傷する可能性がある

分流部の整備が完了すると…

河川整備基本方針規模の洪水に対して

適正な分派により、百間川放水路の機能が発揮され、百間川沿川の浸水が防げます。

単位：m³/s 約6,000

旭川

百間川

砂川

河口水門

適正な分流が可能

分流部の機能強化

治水安全度が向上

約2,000

約4,000

分流比 2:1